

夏季休業を前に、小野市立図書館の職員が、中学生の皆さんにぜひ読んでほしいおすすめの本をご紹介します。

この夏は、新たな本との出会いを楽しんでみませんか。夏の読書の参考にしてください。

また、夏季休業期間中は、図書館2階の自習室を毎日開放しています。ぜひ気軽に図書館をご利用ください。



『抱え手には』  
著者：瀬尾 まいこ  
出版社：講談社

人の心が読める主人公とバイト先で知り合った心を開いてくれない常盤さんの物語。人と人の繋がり大切さを感じられる、やさしい気持ちになれる1冊です。



『ティナの明日』  
著者：A. マルティネス=マンチェン  
出版社：あすなる書房

1940年代のスペインの地方都市。女子中学生ティナは、生活の中で悲しいことや切ないことがあっても嘘や噂より自分で見聞きしたことでも物事の真実を見つけ出します。



『カラフル』  
著者：森 絵都  
出版社：講談社

自殺を図った少年の魂が誰かの体を借りて人生を見直していく。案内役の天使から伝えられる情報や心情を聞いて、モノクロだった世界が色のある世界に変化していきます。



『LIFE 人間が知らない生き方』  
著者：麻生 羽呂  
篠原 かをり  
出版社：文響社

様々な生き物の独特な生態が書かれており、それは、私たち人間の生き方の大きなヒントになっています。



『子どもにつたえる日本国憲法』  
著者：井上 ひさし  
出版社：講談社

日本国憲法の前文、そして第9条をいわきひろさんの絵とともに、分かりやすい言葉で解説してあります。次世代を担う中学生におすすめしたい憲法の入門書です。



『かがみの孤城』  
著者：辻村 深月  
出版社：ポプラ社

男女問わず考えさせられるストーリーで生徒のみなさんにぴったりの小説です。何度も読み返すことでわかる事や感じるがあると思います。



『タガヤセ！日本』  
著者：白石 優生  
出版社：河出書房新社

日本の農業を取り巻く状況や問題だけでなく、著者の学生時代の経験談や彼が独自に選んだ日本のスゴイ農家さんの活動等についても書かれています。みなさんの進路を考える一助になるかもしれません。



『蜜蜂と遠雷』  
著者：恩田 陸  
出版社：幻冬舎

青春×音楽をテーマにした小説です。様々な葛藤を乗り越えて奏でたい音を探索していく物語なので、音楽好きな人はもちろんですが、進路に悩んでいる人達にもおすすめです。



『西の魔女が死んだ』  
著者：梨木 香歩  
出版社：楡出版

自分で考え自分で決めること、そして自分で決めたことをやり遂げるといった生きていく上で大切なことを学べます。また、「死ぬ」ということは悲しいだけではないのだと気づかせてくれます。



『予告殺人』  
著者：アガサ・クリスティー  
出版社：早川書房

平和で退屈な田舎の地元紙にある朝殺人を予告する広告が…！個性的な住民たちと警察官のやり取りも面白く読みやすい作品です。真相がわかった時には「あの時のあのセリフが！」とハッとさせられます。



『阪急電車』  
著者：有川 浩  
出版社：幻冬舎

阪急電車の駅や車内を舞台にした物語です。阪急電車を利用したことがある人は、より物語を楽しめるのではないのでしょうか。電車とともに動き出す物語。短編集で、それぞれの登場人物が繋がっているのも面白いです。



『シタマチ・レイクサイド・ロード』  
著者：濱野 京子  
出版社：ポプラ社

高校の文芸部に所属する読書好きの主人公・希和子。自分には才能がないと引け目を感じていた彼女が、周りの人から影響を受け、一歩踏み出す青春の物語です。



『朝が来る』  
著者：辻村 深月  
出版社：文藝春秋

望んでも子供を授かることのできない夫婦と望まない妊娠をした少女の物語です。2人の女性の人生の選択と葛藤を通して母親になるということはどういうことなのかを考えさせられる作品です。



『大泉エッセイ 僕が綴った16年』  
著者：大泉 洋  
出版社：KADOKAWA

大泉洋さんらしい、とにかく笑える楽しいエッセイです。本を読むのが苦手な人でも、楽しく読める1冊です。

所蔵検索もできる！  
小野市立図書館HPはこちらから↓



【8月の開館時間】 9:00～18:00  
【8月の休館日】 8/19、20